

私たちは地震などいろいろな災害に見舞われる可能性があります。
みなさんは被災時に備えて何か準備をしていますか？今回は地震などの災害時の避難・避難後の問題について調べてみました。災害に備えるための参考にしてください。

ハザードマップ等を確認し、最も安全な避難先を考えておく！

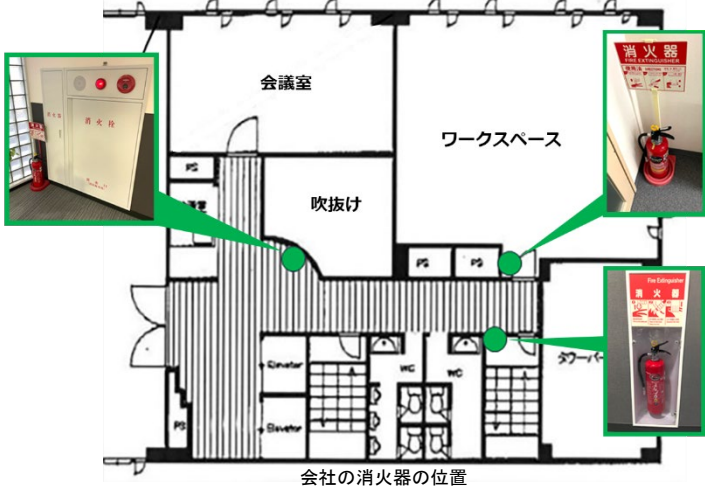
避難とは「難」を「避」けることです。避難先としては以下の3つが考えられます。

- ① 在宅避難……自宅の損傷が少ない・さらなる災害のリスクがない・生活するのに支障がない場合
- ② 分散避難……3密を避けて安全な場所にある親戚や知人の家、宿泊施設などに避難
- ③ 緊急避難場所……危険な時は迷わず緊急避難場所へ避難

日頃から家族と、家から徒歩圏内にある避難場所を確認しておくといいですね。



火災は発生から3分に初期消火を！



会社の消火器の位置

阪神淡路大震災では41万2千棟が焼失し、1万6千人が火災で亡くなりました。一時的な停電後に電気が復旧した際に発生する通電火災は、倒れたヒーターに可燃物が接触し着火したり、通電時に発生した火花が漏れ出たガスに引火し爆発するケースがあります。通電火災を防ぐには、**避難時に「ブレーカーを落とす」**ことが有効な対策の一つです。

また日頃から消火器の場所を把握しておけば初期消火にすばやく対応できるので、消火器の位置を確認しておいてください。

でも無理は禁物ですよ！
手に負えないような火災の場合はすぐに避難しましょう！



津波注意報がでたら、とにかく安全な場所へ移動する！

私たちのオフィスビルのある場所は海が近く、1~2m程度の津波の被害が予想されています。津波は1mを超えると立つことができなくなり、死亡率は100%となります。津波注意報が出たら、**速やかにできるだけ高い場所へ移動しましょう。**「津波で亡くなられた一番の原因」として挙げられるのは、避難経路にあった障害物です。道路の状況や渋滞なども考えて避難経路を選ぶことが大事だと言えますね。



避難先の開設状況を確認できるバカンを活用しよう！



神戸市 HP より

神戸市ではバカンという Web サービスが2022年の3月から導入されました。バカンを使って避難所の開設・混雑状況をリアルタイムで確認することができます。

災害後はトイレが一番の問題に！

水が使えなくなると、深刻な問題となるのがトイレです。災害時の断水などによりトイレが使用できなくなったときのために、備えておくべき防災アイテムが「災害用トイレ」です。自宅に待機する場合を想定するのであれば、便器で使える**携帯トイレがおすすめです。**会社もストックルームに準備しているので、確認しておいてください。携帯トイレは**最低3日分、できれば7日分あると安心**です。一緒にトイレト

| | | | |
|-----------------------|----------------------------------|----------------|----------------------|
| <p>1. ポリ袋を便座の下に挟む</p> | <p>2. 便座の上から携帯トイレを設置 凝固剤を入れる</p> | <p>3. 用を足す</p> | <p>4. 袋をしっかりと閉じる</p> |
|-----------------------|----------------------------------|----------------|----------------------|

ーパー、ランタンやヘッドライト、ウエットティッシュ、便器にかぶせる45ℓのポリ袋を用意しておきましょう。とにかく**地震後はトイレを流さない**のが鉄則。排水管が正常なことを確認できるまで水を流さないように気をつけましょう！



ストックルームの災害用トイレの備蓄